

# 子どもとメディア 北海道

第15号

2014年  
1月発行

今期第3号



子どもとメディア 北海道

## 前号掲載から 2014 年 1 月までの活動報告・予定

| 月日     | テーマ                                   | 行事名・主催者等           | 担当 |
|--------|---------------------------------------|--------------------|----|
| 11月24日 | 電子メディアが子ども達に与える影響ーメディア依存から子どもを守るー     | 旭川市 PTA 研究大会       | 諏訪 |
| 11月27日 | メディアのリスクから子どもを守る<br>～アンケート結果から見たもの～   | 当麻町教育講演会           | 諏訪 |
| 11月28日 | ゲーム・ネット・ケータイ・スマホ<br>自由に使いたいよね?        | 黒松内小学校高学年(授業)      | 中谷 |
| 11月29日 | 電子メディアが乳幼児の発達の与える影響                   | 永山ほたる保育園(旭川)       | 諏訪 |
| 12月7日  | 子どもとメディアの良い関係                         | NPO子育て応援かざぐるま      | 中谷 |
| 12月13日 | 子どもとメディアの良い関係                         | 黒松内町教育委員会関係者       | 中谷 |
| 1月28日  | 生と性を考える教室                             | 別海高校(授業)           | 中谷 |
| 1月29日  | 電子メディアが子ども達に与える影響                     | 旭川市立朝日小学校          | 諏訪 |
| 2月5日   | 子どもとメディア(行政の事業中心)                     | 黒松内町生涯学習委員         | 中谷 |
|        | 子どもとメディア                              | 黒松内町一般町民           |    |
| 2月8日   | 子どもとメディアの良い関係                         | 日高子ども会育成者研修会       | 中谷 |
| 2月12日  | 子どもとメディアの良い関係                         | 新篠津教育委員会(小中P)      | 中谷 |
| 2月15日  | 子どもたちと電子メディア～子どもの<br>心と体を育てるために大切なこと～ | 士別市子育てサポート<br>むっくり | 諏訪 |
| 3月2日   | 子どもとメディアの良い関係                         | 生活クラブ学習会(札幌)       | 中谷 |
| 3月13日  | 演題未定                                  | 旭川市家庭教育プロジェクト      | 諏訪 |
| 3月16日  | 子どもとメディアの良い関係                         | 新日高町青少年育成          | 中谷 |

★子どもを取り巻く様々な立場の支援者や地域の人たちが、子どもがゲームやネットから受ける影響について、危惧されていることを感じます。それは漠然としたことではなくて、生活リズムの乱れや体への影響、これまで活動に参加していた子ども達が参加してくれなくなった、参加してもゲーム機で遊んでいる、表情が心配・・・など、心配されているから講演の依頼が増えているのですね。

★黒松内町では、11月28日に小学校高学年で行った授業でとりあげたネットゲームやゲーム機での友達とのやり取りでのトラブルに対して危機感を持たれ、町の教育委員会として一丸となって取り組むこととなりました。さっそく12月13日に、教育委員会関係者の学習会を開かれ、教育長さんが一番前の席で熱心に、道外の先進自治体での取り組みを学ばれていました。今後のICT教育推進に欠かせない情報モラル教育についての計画づくりを考えていらっしゃるようでした。2月5日にも伺います。別海町に続き、道内のモデルになってほしいですね。

★今号では、諏訪代表が講演をしながら感じたことを特集します！お読みください。

## 諏訪代表に学ぶ!講演会で求められているもの~具体的な手だて~

昨年秋から冬にかけて、複数のPTA関連、学校関係の方々から講演依頼をいただきました。どの講演会も多くの保護者や学校の先生方が参加されていて、子ども達をとりまくメディアの問題への関心が高まってきていることが伺われました。

参加された方々にメディアの影響やその現状をもっと身近に感じていただき、他人事ではないと自覚してもらうために、私は講演の際には次のことを心がけています。

- ①メディアの子ども達への影響について、医学的研究を含めできるだけ新しい情報をお伝えする。
- ②協力いただければ、その学校や園でアンケートを実施して、その結果を盛り込む。
- ③イメージしやすいようにできるだけ具体的な内容を話す。

最近では、スマホやLINEについて話すことが多くなりました。(※3ページから記載しています)

北海道での子ども達へのメディア対策はいまだ十分とは言えませんが、ゆっくりとゆっくりと大人の関心が向いてきた印象があります。急速に普及するスマホ、LINEなどのSNSに伴ういじめや性被害、詐欺などの問題が取り上げられるようになり、ようやく大人たちも「まずい」と思い始めたのかもしれませんが。

技術が進歩するにしたがって、新しい機械やシステムが世にでてきます。そのおかげで私たちの生活はたいへん便利になります。しかし、注意しなければならない点もあります。それは、私達が新たな物を使いこなせるようになるには十分な時間が必要だということです。「使いこなす」ということは、単に「使える」ということではありません。問題が起きないようにコントロールできていて、万が一のトラブルに対して、自分自身で対応できる力を備えていることが「使いこなす」ということです。

自動車が良い例かもしれません。今は自動車がない生活は考えられないほど普及し、もはや1人に1台という時代です。運転免許を取得したドライバーは、道路交通法を守り、事故防止や万が一のトラブルへの対応方法や備えをしています。このとき、ドライバーに必要なのは高度な運転テクニックではなく、「安全に運転するスキル」であることは言うまでもありません。

例え幼児期からカートレースに参加していて、とても優れた運転テクニックを持っていたとしても、18歳にならなければ公道を自動車で運転するどころか免許さえも取れません(アメリカでは多くの州が16歳からOKですが)。これは、テクニックよりも重要なスキルがあるからです。

さて、スマホやLINEを始めとしたSNSはどうでしょう。利用者数は急激に増加していますが、次々と新たなトラブルが増えています。私達はこれらを本当に「使いこなしている」のでしょうか。トラブルが続いている現状を見ると、試行錯誤しながら手探りで使っているように感じてなりません。

さらにこれまでのメディアとは異なる新しい現象がみられます。それは、大人も子ども、一緒に「よーいドン!」でスマホを使い始めたところから。大人でさえトラブルに遭遇し、試行錯誤しながら使っている代物を子ども達も一緒に使い始めていることです。大人たちでもうまく「使いこなしていない」わけですから、子ども達が利用する上でリスクが伴うのではないかと考えます。

スマホやLINEは自動車のように、私達大人からノウハウを教えてあげることは難しく、大人と子どもが一緒になって「使いこなせる」ように協力することが必要なのかもしれませんが、ですから、お互いが一方的にならずに対話して協力して試行錯誤して各家庭での使い方を作りあげていくことが大切なのではないかと

と思っています。

昨年実施した旭川近辺の小学校でのアンケート結果では、ケータイ保有状況など子ども達をとりまくメディアの状況は東京のような大都市とほぼ同様です。つまり、この新たな通信システムに地域差はありません。日本で起きている事件や問題は北海道各地でも起きることなのです。ただ身の回りで起きている事件を知らないだけかもしれません。もはや対岸の火事とたかをくくっている余裕はないでしょう。

今、子ども達の周りで何が起きているのか、起き得るのか、どう注意すればよいのかを啓蒙し続けていくことはこれからも必要です。今後は、「**家庭や学校で具体的にどうすればよいのか**」というところに重点をおいた活動が必要であることを各講演会からひしひしと感じます。

当会としても今年はこの点に注目した活動をしていきたいと考えています。みなさんにもご協力をお願いすることになると思いますがどうぞ宜しくお願い致します。

**\* LINE をめぐって次のような問題が起きています。 \***

諏訪先生の講演会  
の内容から、ラインに  
ついて紹介します!

#### 1. トークがやめられずに夜中までスマホをいじって寝不足。

授業中に居眠りしてしまい学習への影響が出ています。睡眠中、夜中にクラスの友達からのメッセージで目が覚めてしまい、一度それを読んでしまった場合は返信をしないと「既読無視」といわれ、最悪仲間はずれにされてしまうので仕方なく返信する。そうするとさらに返信がくるのでまた返信するといって睡眠が障害される子もいます。

仲間はずれにならないように子ども達は常にスマホを気にしながら生活していて、気持ちが休まることはありません。中には依存への道を進む子もでてきます。

#### 2. クラスの友人、部活の仲間などといった身近なグループを中心としてネットワークを作るため、人間関係でのトラブルが起きると事態が深刻化します。

LINE の特徴として一度送ってしまったメッセージや画像は削除することはできません。間違った内容や誤解される内容を送ってしまった時、それがもとでトラブルが起きる可能性があります。

気がついてみたら自分だけ外されて他の LINE 仲間の間であることないこと陰口をたたかれ、いじめに発展するケースも珍しくありません。クラスに居場所がなくなれば、不登校へ発展してしまいます。LINE が原因で中学生が自殺するといった痛ましい事件が現実には起きています。

#### 3. LINE は個人グループでのネットワークですので、大手業者の SNS のように管理人は存在しません。また、グループ外にその内容が漏れることはないので、とても閉鎖されたネット空間でやりとりがされるため犯罪につながるようなトラブルが起きても外部の人間は察知できないのです。

#### 4. 個人情報簡単に、一度に、多くの相手に流出して拡がります。

LINE は最大 100 人のメンバーとグループを作れます。悪気がなくても、友達をいじめようとしてもその理由を問わず、トークの内容や画像・動画は個人が望もうと望むまいと一斉に 100 人に送られてしまいます。さらに、その 100 人が別のグループでも LINE をしていたら、全く関係のない他人に拡がります。またその人たちが別のグループに…といったらあっという間に個人情報が多くの人に漏れていくこととなります。

私は子ども達に、LINE をしている友達からスマホでの写真や動画撮影をお願いされても断るよう話しています。些細なことがきっかけでトラブルとなった時に、その画像や動画を悪意をもって利用される可能性があるからです。

そこまで神経質にならなくてもと思う方もいるかもしれませんが、今問題になっている「リベンジポルノ」が良い例です。一度、拡散した情報は二度ととりもどせないこと、自分の知らない人間の手元に残ること、それで一生苦しむことになるかもしれないことを肝に銘じる必要があります。

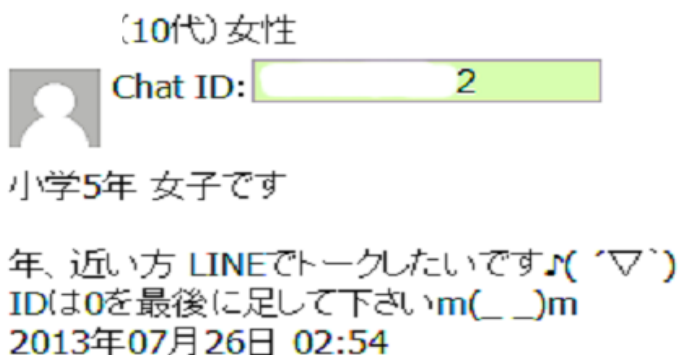
**5. 2013年9月24日、LONEで「友だち削除」機能が開始**されました。本来、自分のスマホに見知らぬ人からのメッセージなどをブロックする機能ですが、「あいつのこと、みんなでトモサクしようぜ」などと新たなイジメにつながらないか心配です。

このようなLINEに関わるトラブルを避けるために、次のことを子ども達に守って欲しいと思います。

1. 誰も見ることができるサイトには、個人が特定される情報は書き込まない。  
例) 学校名、本名、住所、メールアドレス
2. LINE IDを公表しない。
3. LINEでメッセージや画像を送信するときには、誰に見られても大丈夫な内容かどうか、誤解を生まない内容かをもう一度確認してから送る。
4. トラブルには絶対自分一人に対応しない。家族や先生に必ず相談する。
5. 就寝時には電源をoffにするか、親にケータイを預けることでゆっくり睡眠するとともに心が休まる時間を作る。

親が知らないところで子ども達は自己表現の場や人との関わりをネットの世界に求めています。

次の例は、私があるサイトから実際に見つけた一例です。北海道の小5の女の子がチャットで書き込みをしている様子です。書き込みの時間からは親は我が子がこんな時間にこんなことをしているとは知らないかもしれません。さらにLINE IDを簡単に公表してしまっていますが、トラブルに巻き込まれないことを願うばかりです。



ある小学校で「ケータイを持ったら何をしたいですか」と質問したところ、半数の生徒がLINEと答えました。このように、すでに子ども達にとってケータイ=LINEという構図が出来上がってLINEは夢のようなツールとして彼らには映っています。

LINEをしてはいけないとは言いませんが、トラブルを防ぐための使用目的、使用方法について保護者は考える必要があります。

## 小学校でLINE氾濫「規制困難」 主戦場は小4…大人が知らないSNSの実態

産経新聞 13年 10月 13日(日)12時0分配信

昨年秋の情報ですが、諏訪先生原稿を読んで思いました。子どもの発達段階を考えた時期についての啓発とともに、実態に合った情報提供も必要ということでしょう。

スマートフォン(高性能携帯電話)の爆発的な普及に伴い、小中学生にとっても無料通話アプリ「LINE(ライン)」は今や必要不可欠なコミュニケーションツールとなっている。だが、LINEを発端とした凶悪事件やいじめが後を絶たない中、保護者や学校関係者の危機感は強い。近畿2府4県の教育委員会や自治体、警察本部は昨年末、全国初の連絡会議を発足させたが、今年9月の総会で座長はこう指摘した。「知らないのは大人だけ。問題は日々変化している」。大人が知らない、子供をめぐるSNSの実態とは一。

昨年12月、近畿2府4県と政令指定都市、各府県警、携帯事業者5社など45団体で構成する「スマートフォン時代に対応した青少年のインターネット利用に関する連絡会」(事務局＝総務省近畿総合通信局)が設立された。関係者がこれほど大規模な連携を図るのは、全国で初めてだ。この設立総会で参加者から出された課題や悩みは、主に高校生のインターネット利用に関するもの。昨年7月の総務省調査では、高校1年生の59%がスマホを利用しており、有害サイトへのアクセスや個人情報流出などの被害をいかに防ぐかが最大の関心事だった。

ところが、今年9月末に大阪市内で開かれた第1回定期総会では、様相が一変。急速に普及する無料通話アプリ「LINE」への対応策に話題が集中した。連絡会の座長を務める兵庫県立大准教授の竹内和雄氏は「もはや主戦場は小学4年生だ」と指摘する。竹内氏によると、学童保育が小学3年生で終了し、野球やサッカーなどのクラブ活動や学習塾通いが始まるのが4年生。このタイミングで子供に携帯を持たせる親が多いが、選ばれる端末はフィーチャーフォン(従来型携帯電話)ではなく、スマホだ。

携帯電話会社関係者によると、子供にスマホを買い与える際、子供が「LINEができなくなる」と文句を言うため、フィルタリングを導入しない親が増えているという。もっとも、フィルタリングは携帯電話会社の回線を利用するときには有効だが、Wi-Fi(ワイファイ)経由のネット接続には機能しない。このため、携帯電話会社は自社Wi-Fiに有効なフィルタリングを用意しているが、街中のコンビニなどにあふれるフリーWi-Fiスポットでは効果がない。

しかも、最近の学校現場では、クラブ活動の連絡網もLINEで代替しているところが多く、「もはや必要不可欠なツール」(大阪市のPTA役員)となっているのが実情だ。竹内氏は「子供を物理的に規制するのは困難」と断言する。実際、大阪府寝屋川市の小学校でこんなケースがあったという。携帯電話の持ち込みはもちろん禁止だが、ある児童が、10人まで同時接続できる携帯電話会社の無線LANルーターを教室に持ち込み、アイポッドタッチでLINEをしていた。もちろん、アイポッドタッチへのフィルタリング導入は困難。この時、教室ではどんなサイトも“見放題”になっていた。

だが、LINEを発端とした凶悪事件やいじめなど、深刻な事態に発展するケースが相次いでいるのも事実で、保護者や学校は手をこまねているわけにはいかない。9月末に開かれた定時総会では、活発な議論が交わされた。大阪府高石市の私立中高の教諭は、生徒のスマホにはほとんどフィルタリングは入っていないことや、入学前からLINEを使って生徒同士がすでに知り合いになっていることが多いという現状を報告。その上で、「何度も生徒同士で使い方のルールを話し合うことが重要」と指摘した。学校側がガイドラインなどを押しつけるのではなく、写真や発言を投稿する前に、生徒自身に影響や投稿者としての責任を考えさせるべきとの立場だ。

また、兵庫県の担当者は、「LINEを批判するだけでは、他の無料通話アプリや海外のサービスに流れるだけではないか」とも指摘。LINEだけでなくさまざまなSNS(ソーシャルメディア)の利用に関するルール作りを求めた。総務省によると、聖心女子大や日本大学の付属中高では、SNSのガイドラインを策定している。いずれも発信が社会に及ぼす影響やプライバシー保護について、自己責任での熟慮を促すもので、大人が枠を当てはめるのではなく、生徒に自己規制を求めた形だ。

定時総会の場で、座長の竹内氏がLINEを使ったことがない参加者に挙手を求めたところ、実に半数近くが手を挙げた。竹内氏はこう指摘した。「子供のスマホ利用について、知らないのは大人だけだ。問題は日々変わっており、本人たちにルールを考えさせるしかない」(南昇平)

前号で書きましたが、平成26年度に子どもとメディア北海道として、情報誌発行以外の活動にも取り組みたいと考え、『子どもゆめ基金』の助成金に応募しました。旭川教育大学の村田先生と大学生のお力添えをいただいて、「情報モラル教育を重視した親と子のためのIT教室」を組み立ててみました。助成金の申請が通るかどうかは4月中旬にならないとわかりませんが、申請書の一部を紹介しますので、ご覧下さい。申請が通ったらみなさんにもお手伝いや参加をお願いしますのでよろしくお願ひしますね。

|      |                                       |             |
|------|---------------------------------------|-------------|
|      | 団体名                                   | 子どもとメディア北海道 |
| ふりがな | じょうほうもらるきょういくをじゅうしたおやとこのためのあいていーきょうしつ |             |
| 活動名  | 情報モラル教育を重視した親と子のためのIT教室               |             |

| 活動の分野 (いずれか1つに○を記入) |                                  | 活動の種類 (いずれか1つに○を記入)               |                | この活動における、過去5年間のゆめ基金助成金交付実績(口内に○を記入) |        |
|---------------------|----------------------------------|-----------------------------------|----------------|-------------------------------------|--------|
| 体験                  | <input type="radio"/> 自然体験活動     | <input type="radio"/> 子どもを対象とする活動 |                |                                     |        |
|                     | <input type="radio"/> 科学体験活動     | フォーラム等普及活動                        |                |                                     |        |
|                     | <input type="radio"/> 交流を目的とする活動 | 指導者養成                             |                |                                     | 平成21年度 |
|                     | <input type="radio"/> 社会奉仕体験活動   | 資格取得                              | 可能(資格名: )      |                                     | 平成22年度 |
|                     | <input type="radio"/> 職場体験活動     |                                   | 取得条件 (口内に○を記入) |                                     | 平成23年度 |
|                     | <input type="radio"/> その他の体験活動   |                                   | 任意             | <input type="checkbox"/> 必須         |        |
| 読書                  | 読書活動                             |                                   | 不可能            |                                     | 平成25年度 |

|  |  |  |                              |                                 |
|--|--|--|------------------------------|---------------------------------|
| 活動場所<br>(具体的に記入)   | ・札幌市での開催・・・北海道教育大学札幌駅前サテライト<br>・白老町での開催・・・白老町総合健康福祉センター<br>・旭川市での開催・・・北海道教育大学旭川校 | 北海                                       | 都・道・府・県                      |                                 |
| 参加者を募集する範囲(いずれか1つに○を記入)                                      | 募集地域(募集予定の都道府県名又は市区町村名を記入)   |  |                              |                                 |
| <input type="checkbox"/> 24都道府県以上で募集(全国規模)                   |  |  |                              |                                 |
| <input type="radio"/> 全国規模以外で、都道府県下全域または、都道府県を越えて募集(都道府県規模)  | 北海道(札幌市・旭川市・白老町)   |  |                              |                                 |
| <input type="checkbox"/> 上記以外で、市区町村単位または、複数の市区町村にて募集(市区町村規模) |  |  |                              |                                 |
| 募集対象<br>(口内に○を記入)  | <input type="checkbox"/> 未就学児( ~ 歳)  | <input type="radio"/> 小学生(1 ~ 6年生)       | <input type="checkbox"/> 中学生 | <input type="checkbox"/> 高校生    |
|  | <input type="checkbox"/> 大学生等  | <input type="checkbox"/> 一般成人            | <input type="radio"/> 保護者    | <input type="radio"/> その他(教員など) |
| 募集人数   | 子ども(高校生以下)<br>20名 × 3回 = 延べ 60名  | 大人<br>30名 × 3回 = 延べ 90名                  |                              |                                 |
| 募集方法<br>(口内に○を記入)  | <input type="radio"/> チラシ(配布先: 学校や公共機関)  | <input type="checkbox"/> ポスター( )         |                              |                                 |
|  | <input type="radio"/> 広報誌(名称: 自治体広報誌)  | <input type="radio"/> その他(新聞・当会HP・当会情報誌) |                              |                                 |
| 参加費<br>(口内に○を記入)   | 有料【1人あたり 円】  |  | <input type="radio"/> 無料     |                                 |
| 共催   | (国又は地方公共団体と共催する活動は助成の対象となりません。)  |  |                              |                                 |

|      |   |          |
|------|---|----------|
| 活動期間 | 4月 1日(火) ~ 3月 31日(火) 活動報告書※を作成する場合、その配付日を含む                                     |          |
|      | ※活動報告書とは、助成活動実施後に団体が任意で作成する活動内容をまとめた印刷物のこと。助成対象経費にその作成・配付に係る経費を計上する場合は右の口内に○を記入 | 助成金で作成する |

|     |             |
|-----|-------------|
| 団体名 | 子どもとメディア北海道 |
|-----|-------------|

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| ふりがな | じょうほうもらるきょういくをじゅしたおやとこのためのあいていーきょうしつ |
| 活動名  | 情報モラル教育を重視した親と子のためのIT教室              |

**この活動を計画した目的やねらい(200字程度を厳守すること)**

拙団体では過去3年間、道内約30か所で、「子どもの成長とメディア」について、主に保護者や支援者などの大人を対象に啓発活動を行ってきた。そこで見えた課題は、中高生になり携帯電話やスマートホンを持たせてから、家庭でのルールづくりを試みても難しいことである。また小学生の時期でも、低学年・中学年・高学年では、発達段階や関心のあるメディア機器に違いがある。本事業では、大学の先生や学生の協力を得て、これまでの知見を深めながら、きめの細かい「情報モラル教育」のプログラムを作成する。道内3か所でそのプログラムを実施し、来年度以降も継続して啓発できるような取り組みとしたい。

| 活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラム名と主なポイント(箇条書きで3つまで) |  |
|---|--|
| <具体的なプログラム名>                                  | <主なポイント>   |
| 子ども向け情報モラル教室                                  | 小学校の低学年・中学年・高学年それぞれの発達段階をふまえた情報モラル教育について、プログラムを開発し、道内3か所で実施する。                           |
| 大人向け情報モラル教室                                   | 小学生の保護者や教育関係者を対象に、大人の責任として、情報メディアの利用に制限をつけることも含めた情報モラル教育を実施し、家庭でのルールづくりに生かしてもらおう。(道内3か所) |
| 先進的な研修会の参加                                    | 全国規模の先進的な研修会に参加し、学んできた内容を当会のHPで紹介する。また、先進地の取り組みを、ここ北海道で次年度の活動に生かしたい。                     |

| 月   | 日 | 曜日 | 時間 | プログラム内容(開始時間と終了時間をいれること)   |
|-----|---|----|----|--|
| 4月  |   |    |    | <p>①「子ども向け情報モラル教室」開設のためのプログラムを作成する。<br/>北海道教育大学教育学部旭川校教員養成課程 生活・技術教育専攻の村田育也先生や研究室の学生さんと、打ち合わせを3回持ち、プログラムをつくる。</p> <p>②道内3か所での情報モラル教室開設へ向けての準備<br/>札幌市・白老町・旭川市の3市町村において、「情報モラル教育を重視した親と子のためのIT教室」を開催するため、会場の手配、チラシの作製、広報活動を行う。</p> <p>③道内3か所での「情報モラル教育を重視した親と子のためのIT教室」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市での開催<br/>会場予定・・・北海道教育大学札幌駅前サテライト</li> <li>・白老町での開催<br/>会場予定・・・白老町総合健康福祉センター</li> <li>・旭川市での開催<br/>会場予定・・・北海道教育大学旭川校</li> </ul> <p>④先進的な研修会の参加(福岡市):3人<br/>学んだことを会のHPで広く情報提供する</p> |
| ～   |   |    |    |  |
| 8月  |   |    |    |  |
| 5月  |   |    |    |  |
| ～   |   |    |    |  |
| 9月  |   |    |    |  |
| 10月 |   |    |    |  |
| ～   |   |    |    |  |
| 12月 |   |    |    |  |
|     |   |    |    |  |
| 2月  |   |    |    |  |

**【プログラム：例】**

子どもと親は別々の部屋で、1時間半程度、それぞれの「情報モラル教育」について学習する。その後30分程度、学んだことを元に、親子で、「家庭でのルールづくり」についてや、気づいたことを確認する。

|                         |        |    |        |    |
|-------------------------|--------|----|--------|----|
| 当日活動に携わる<br>指導者等の数(実人数) | 指導者(A) | 1名 | 指導者(B) | 名  |
|                         | スタッフ   | 6名 | 団体構成員  | 5名 |

**指導者名**

指導者(A):北海道教育大学教育学部旭川校教員養成課程生活・技術教育専攻准教授村田育也先生  
スタッフ:北海道教育大学教育学部旭川校教員養成課程生活・技術教育専攻学生6名  
団体構成員:諏訪清隆・中谷通恵

おすすめの本2冊、

紹介します!!

①「ネット依存」 樋口進著 (PHP新書)

②「ネット依存のことがよくわかる本」

監修 樋口進(講談社) 健康ライブラリーイラスト版

\*どちらも、(独) 国立病院機構久里浜医療センター院長の樋口先生が、ここ2年ほど患者さんを診察した臨床現場からの報告です。②はイラスト豊富なので誰にでもわかりやすいです。

これからの会の運営について、アンケートにお答えください。

\*今年度、「子どもとメディア北海道」の会員は、14名でした。会費の納入方法のわずらわしさや、情報誌の発行だけの活動であることなどが、会員の増えない要因かと考えます。

\*反して、子どもが情報メディア機器によって心身の発達によくない影響を受けていることを心配している支援者や、「どうしたらいいのか」と戸惑っている保護者からの講演会等の依頼は増えています。

\*そこで年4回発行の情報誌を、1人でも多くの人たちに読んでもらうにはどうしたらよいか検討しました。事務局としては、**情報誌を発行後、情報誌の電子情報をPDF化して、「子どもとメディア」のHPに掲載してはどうか**と考えました。

合わせて、会員の方から「情報誌は紙ではなく電子情報の方がありがたい」という意見も頂いていることから、希望者には、個人のメールアドレス宛にPDF化した情報誌を送信いたします。

(もちろん、紙ベースの情報誌希望の方には、今まで通り郵送します。)

\*そうすると、会員になっていただいているメリットも薄れてしまうのですが、会員の方には研修会などの情報提供や、今後助成金を利用しての講座案内、また、それぞれの仕事や活動における相談に乗る・・・などを充実させていきたい考えです。

\*今回同封のアンケート用紙に、今後の活動についての質問をあげておりますので、お忙しいところ恐縮ですが、みなさまのご意見をお聞かせいただきたくお願い申し上げます。

\*アンケートにご記入後、事務局(中谷)まで、手渡しかFAX、郵送で返信ください。ご希望の方には、電子情報でアンケートを送らせていただきますので、中谷のメールアドレスまでその旨伝えてください。

\*年度末のお忙しいところ恐縮ですが、**2月末までに返信いただければ幸いです。**情報誌のホームページ掲載については、ご意見がなければ、3月以降これまで発行した情報誌を順次掲載してまいります。

\***来年度の会員募集については、次号(今年度最終号4月予定)**でお知らせします。

事務局(中谷 通恵 なかや みちえ)

〒059-0908 白老郡白老町緑丘1丁目3-34

TEL/FAX 0144-82-2685

メールアドレス [michie-n@plum.plala.or.jp](mailto:michie-n@plum.plala.or.jp)

子どもとメディア北海道

ホームページアドレス

<http://childmediahk.web.fc2.com/>